

実世界と仮想世界など（2）

インターネットに、今現在十分に対応できているのでしょうか。インターネット上にバーチャルな世界が構築されつつあるといいましたが、確かにいろいろなものがインターネット上に移りつつあるような気がします。サービス活動を考えた場合、これまで新聞広告などの紙の媒体で行われていたもの、ラジオやテレビの放送媒体で行われていたものがインターネット上で広告されています。確かに今のところインターネットから受動的に流れてくるような環境下ではないわけですから、これまでの宣伝媒体がすべてインターネットに移ってしまったわけではないのです。しかし、これまでの媒体と違ってインターネットの場合は双方向性があります。インターネットの端末の使われ方がこれまでのようなパソコン上の表示でなく、今のテレビのようになり、家庭の中に浸透していけば、各家庭での反応が簡単に収集することができるようになります。画面を見てクリックしたり、タッチしたりすればよいわけですから。インターネットを使う会社は見やすい、情報をとりやすい、製品にフィードバックできるホームページを作るようになります。利用する家庭は、これまでのようにただ流れてくるわけではなく、興味のあるものを探したり、意見を言ったりしながらネット上で購入まで行うようになります。そうなる则ちこれまでのテレビではなく、その中には会話、コミュニケーションが形成され、ネット上のコミュニティが作られていきます。これが仮想世界です。

これまで出かけていかなければならなかったものが、画面と会話していく中で完結してしまうようになります。仕事も同じです。どれだけ実際に出かけて行わなければならないことがあるのでしょうか。実際に生産にかかわるものは別として、会議は画面上でこれまでもテレビ会議で十分ですし、会議であればメールや掲示板、チャットを利用すれば時間を気にしないで自由に行うこともできます。出席の人数も制限がないわけですから、これまで以上に成果の上がるものになる可能性もあります（もちろんまとまらないことも考えられますが）。生産分野においても資材関係は既にネット上で行われ、その大使用はこれまでのような近隣から全世界へと規模が大きくなっています。会社との雇用関係も変わってくるかもしれません。ネット上のバーチャルな会社であれば、成果に対して報酬を分配すればよいわけですから、一人一人が会社であり、プロジェクトによって集まって仕事をしたりすることができます。あくまで仮想世界のコミュニティの話ですが、実世界となんら変わらないばかりでなく、効率がこれまで以上に上がることも考えられます。

このような世界は今後十分に形成されてくることが考えられ、これまでの形にこだわらない人たちがたくさん出てくるものとは思いますが、すべてのひとに対応できていくものかといえはいろいろ疑問があります。これまでのようにひととひとのつながりを重視していつは取り残されていくでしょうし、会社が成り立たなくなっていくことも考えられます。個人にしても会社にしても自治体にしても必要なものがあればネット上で国内ばかりでなく全世界から探すことができます。より良いものがより先進的なものです。これまでであればいろいろ不安があつて、しっかりしたところではとちがちですが、このようナリスクとネットを利用することによる恩恵を考えた場合、いつまでもこれまで通りとは行かないでしょう。

ネットでの情報が身近になるにつれて現実と仮想世界の境目がはつきりしなくなるのではないのでしょうか。

（次回へ続く）

(情報誌トピックス)

○日経パソコン 2月4日号

特集 完全復旧

→現在のところWindowsで動くパソコンは、残念なことに使い込むことによってだんだん不安定になっていく運命にある。それを回避するためにどうするか。それがリカバリー環境をつくってしまうことにある。まささらなディスク環境で、OSや必要なプログラムをインストールしたあとでその内容をバックアップしてしまう。相することによって簡単にその環境に戻ることができる。そんなことができるバックアップソフトもある。データは別のディスクに書き込んでおくことで問題はない。

特集 音楽ファイルの基礎

→パソコンで音楽CDを聴く、オリジナルCDを作るなど、音楽ファイルを知ることによってどう使っていけばよいかの特集。

レポート CD-Rで作るDVD画質ディスク

→DVD-Rドライブがなくても画質がDVDと同じMPEG2の画像ファイルをCD-Rに焼きこんで作るには、画像の取り込み方と編集の簡単な方法まで。

○日経バイト 2月号

特集 GUIを超えるもの

→ユビキタスコンピューティングが幕を開けようとしている現在、これまで中心であったGUIが誕生から30年。マンマシンインターフェースが変わろうとしている。使い方を知らなくても使えるようにならないか。もっと入力効率を上げる方法は、いろいろなチャレンジが始まっている

特集 動き出すポスト802.11bの世界

→無線LANの規格に802.11があり、それにはa、b、gとeがあり、現在主に普及しているのは802.11bで通信速度は11Mbpsで、この規格に準拠していることによって相互接続ができる。新規格11aは54Mbpsで現在の約4倍の速度。2.4GHz帯を使うaに対してbは5GHz帯をつかう。速度は速いが光に近く屋外で使用できず、障害物に弱く価格が高い。

○N+I MAGAZINE 2月号

特集 データセンターその最先端技術とサービスを取り込め！！

→ネットワーク設備と運用人員を社内で用意するのは標準的であるが、そのためには大量な資金と時間と人材が必要になる。その解決方法がデータセンターであるが、その活用ポイントとメリット、活用方法は。

特集 SNMP実践活用テクニック

→ネットワーク上の危機の状況を把握するための手段が、多くのネットワーク機器に搭載されているSNMPを利用して行う方法。SNMPを使ったネットワークの管理運用の実践手法と、ネットワーク機器からの取得した情報の読み方まで。

特集 2.4/5GHz無線LAN徹底理解

→ユビキタスネットの最後の部分を担う無線LAN。これまでの2.4GHzを使ったものと5GHzのもの、各規格の詳細と無線LAN導入

の考え方。

○ASCII 2月号

特集 ブロードバンド プロバイダ乗り換え案内

→プロバイダ乗り換えの選択のポイントは。ブロードバンドに移行するときはそのサービス体制、品質などを比較、検討して選択する。せっかくならいろいろな情報から最もあったプロバイダを選択したい。

特集 Windows XP最強環境

→新しいOSはいろいろなカスタマイズができる。ネットを高速にしたり、セキュリティを強化したり。最強環境がつかれる。

○DOS/V magazine 2月1日号

特集 Northwood登場!DDRマザー最強導入大全

→プロセスルールを0.13 μ mにシュリンクし、L2キャッシュを512kBに増量したPentium4-Northwoodが登場、DDR SDRAMをサポートしたチップセットも登場し、マザーボードも次の世代に入る。新Pentium4とチップセットの解説都心マザーボードの解説。

特集 ADSL 8Mbpsアップグレード完全版

→1.5Mbpsで始まったADSLも、今年は8Mbpsがキーワードになる。しかし、実際は思うような速度が出なかったりもする。乗り換えるには、使いこなすには。アップグレードの完全版。

特集 フラットディスプレイ進化論

→パソコンのディスプレイは既にCRTから液晶に中心が移っている。最新の液晶技術はどうなっているかを知り、今後の動向を探る。

○DOS/V magazine 2月15日号

特集 PCファイナルアンサー200+2

→CPUから各パーツ、OSまでもを含めた日ごろ気になっている疑問に答える。

特集 どこまでつかえるWindows XPの拡張機能

→これまでアプリケーションに任せてきたものまで新機能として取り入れてきたWindows XP。それぞれの機能は別売りのアプリケーションと比べてどこまで使えるか。